

田中信生 コラム

●人間にとって最も大切なもの
車イスの方が、エレベーターに乗ろうとしました。するとひとりの若者がさりげなく「上ですか？」と確認してボタンを押している光景に、胸が熱くなりました。

人間にとって、最も大切なものは何でしょうか？健康、お金、人間関係・・・それらも大切でしょう。「それは命です」と答えられる方もおられるかもしれませんが、その命よりももっと大切なものがあります。それは、自分を犠牲にしてでも他者を慮る《いつくしみ》です。「お母さんがわが子をいつくしむ」という表現からも分かるように、見返りを求めない無条件の愛と言ってもいいでしょう。

《いつくしみ》にはいくつかのレベルがあります。例えば、上述の若者のしたことは《いつくしみ》の第一歩です。次に車イスの方に道を尋ねられたら、丁寧に説明をしたり、言葉だけではなく、地図をお渡ししたりするのもいいでしょう。でも一番は一緒に目的地までお連れすることでしょう。ひとりびとりのちいさな《いつくしみ》が

世界を覆う《いつくしみ》になることを私は心から祈っています。



井出かほる コラム

●「選手」とは
日本人は野球が好きです。今ちょうど夏の甲子園で高校球児たちの熱闘の様子を、連日、テレビや新聞で見えています。選手たちのひたむきさが、輝きとなってこちらに伝わってきて、感動します。

ところで「選手」といいますが、なぜ「選ぶ手」と書くのかご存じですか？ある方が教えてくださった話です。「それは、神様が『あなた』を選んだ手という意味。そしてもう一つ、その神様の手に応答した『あなた』の手という意味です」。

神様が私を選んだ手、選ばれた私の手。神様の手と自分の手が握手している様子を想像したときに、私はとてもこの「選手」という言葉に感動を覚えました。人は皆選手です。

風邪で熱があっても、明け方から起きて、子どもの遠足のお弁当を作っているお母さん選手。ご主人のワイシャツのとれかかったボタンを直してい

る奥様選手。誰かが飲みっぱなしにしていたコップをそっと片付けているOL選手。炎天下の中、汗だくになって草むしりをしている選手。自分の仕事が、何度も中断されながらも電話をとっている選手。周りを見まわせば、あちらにもこちらにも、高校球児に勝るとも劣らない眩いばかりの輝きを放っている選手がたくさんいます。

あなたも神様に選ばれた選手です。与えられたところで精一杯あなたならではの輝きを放って参りましょう。それこそが、神様からあなたに差し出された手を握っていることなのです。

原因ではなく本質を探す

よく子どもさんの問題のご相談を受けます。ほとんどの方はその問題の原因を探そうとします。だいたい行きつくところは「親が悪い」「子が悪い」「環境(学校など)が悪い」の三つです。しかし原因が分かったからといって、問題が即解決するかというところではありません。

たとえば「子どもが小さかったとき、仕事が忙しくてなかなか手をかけてあげられなかった。だから今息子は

非行に走っているんだと思います」と親御さんが原因を見つけたとします。しかし、それが本当に原因だとは限りません。また仮にそれが原因だとしても、小さい頃に戻ってわが子にかかわることはできません。原因を探すことは、わが子の問題を理解するうえでとても大切なことです。しかし、原因が分かったせいで「結局、私たちの育て方が悪かったんだ」と親御さんが自分を責めることになると、何のための原因探しか分からなくなります。親御さんのストレスが増えるだけです。大切なことは、問題の原因ではなく本質を探すことです。

「息子は私に反発しているんだと思います。そしてそんな息子に私もイラついている。結局、息子と私はそっくりなんだと思います。息子を通して私は自分を見ているんだと思います」。問題の原因ではなく本質を探そうとしている親御さんの口からよくこぼれてくる言葉です。早晚、子どもさんも親御さんも共に成長していかれます。(文責 金藤 晃一)

責任編集：金藤晃一 配信責任：坂口 明
発行：トータル・カウンセリング・スクール
〒992-0045 山形県米沢市中央 3-5-12
Tel. 0238-23-6439 Fax. 0238-23-6440